

# 2013 年度第 2 四半期決算説明会サマリー(2013 年 11 月 8 日開催)

## (1) 2013 年度 第 2 四半期決算概要

売上高	1,814 億円	前年同期比	+ 172 億円	→ 数量増 +39 億円・販売価格差+134 億円
営業利益	105 億円	前年同期比	+ 7 億円	
<要因別内訳>		数量影響	+ 7	→ 内需製品販売増・CR 輸出数量増
		交易条件改善	+ 13	→ 製品価格+134 > 原燃料価格上昇 ▲ 121
		コスト負担	▲ 13	→ 在庫影響 ▲ 7 等

内需型製品が堅調な出荷である一方、製品によっては需要低迷が長引いたり、原材料価格上昇分の価格転嫁が遅れ気味になるなど、事業ごとにまだら模様。

全体としては円安効果により増収増益。

( 当初予想比 売上高 ▲ 46 億円 営業利益 ▲ 5 億円 )

## (2) 2013 年度 業績予想

売上高 3,900 億円 営業利益 250 億円 ( 5 月の期初予想を据置 )

堅調なインフラ・無機材料が期初予想比で増益となり、電子・先端プロダクツ等の需要回復遅れや、生活・環境プロダクツのコスト増など他セグメントの減益を補う。

## (3) 経営計画「DENKA100」の新成長戦略の進捗状況

### ① 生産体制の最適化

海外市場向け製品は極力現地生産とし、国内工場は内需製品やハイエンド品、高機能品に特化  
合成繊維「トヨカロン®」(シンガポール) → 7 月稼働開始  
特殊混和材(中国・東南アジア) → 地域事業統括会社設立  
PVC テープ「ビニテープ®」 → 新工場開設決定(ベトナム・2015 年 5 月稼働予定)  
酢酸ビニルモノマー → 事業撤退決定(2014 年 4 月生産終了)

### ② 新たな成長ドライバーへの経営資源の集中と次世代製品の開発への取り組み

超高純度アセチレンブラック製造設備新設(千葉・2015 年 4 月稼働予定)  
エス・イー・アイ株式会社との資本提携強化(2013 年 9 月)  
NIMS-DENKA 次世代研究センター開設(2013 年 6 月)  
山形大学との包括共同研究に向けた協定書調印(2013 年 10 月)

## (4) 特殊混和材海外展開

中国・アジアを中心としたインフラ整備需要拡大と高まる品質要求を背景に、研究開発・生産・販売体制の整備加速

中国 : 上海に地域事業統括会社設立  
電化無機材料(天津)有限公司で生産  
電化新材料研発(蘇州)有限公司で研究開発・TS

東南アジア : シンガポールに地域事業統括会社設立  
外部委託生産の拡充

目標 : 2017 年度売上高 国内 150 億円 + 海外 150 億円 = 300 億円 (現在の 2 倍)

## (5)質疑応答

### 1 値上げや中国のアンチ・ダンピング課税を踏まえた、クロロプレンゴムの下期の価格・数量の見方

ブタジエン市況軟化に呼応したクロロプレンゴム価格の下落から、当社販売価格も下げざるをえなかった。しかし足元ではブタジエン価格が持ち直していることから、他社が値上げを表明しており、当社も海外 300 ドル、国内 30 円の値上げを打ち出した。1～3月には効果がでよう。また中国への出荷減は、他地域でカバーする。需要は底堅いが、価格の維持を考えると、従来のような数量増は厳しい。

### 2 通期予想を上方修正したインフラ・無機材料におけるセメントの値上げ効果

セメントは 1,000 円の値上げを打ち出しており、予想にもその一部を織り込んでいる

### 3 特殊混和材の国内売上高の今後の見方

オリンピックに向けた補修工事等があるものの、公共投資が頭打ちであることなどから国内は今までのようには伸びないとみている。2017 年度までに現在 120～130 億円程度の国内売上高を 150 億円にする一方、10～20 億円程度の売上高を 150 億円に拡大すべく、営業や技術サービスなどの経営資源を、中国や東南アジアに振り向ける。

### 4 電子・先端プロダクツの製品ごとの上期の動きと下期の見通し

全般的に低迷。主力の熔融シリカと機能フィルムはスマートフォン向けで一定の需要はあるが、パソコンなどの従来型製品の販売が増加しないと量がでない。現在は需要構造の過渡期にあると考えている。したがって、景気が戻ればこれら主力製品の需要が回復するわけではないので、ニーズを先取りした製品・グレード開発を行う。

### 5 現在の中国高速鉄道の状況と電子部材の今後の見通し

一時期ストップしていた中国の鉄道車両製造は、再開されつつある。車両メーカーの基板発注先が、当社の販売する日系の電機メーカーだけではなくなるなど、競争激化もあり、完全な回復はまだ半年から1年先になる。また急激に稼働が落ちたことから、人員削減など現在の状況に見合った生産体制にしている。

### 6 テンプロックの現在の状況と今後の見通し

上期はテンプロックだけではなく、加工機械を含めたソリューションビジネス全体の売上高が増加。現在中国でテンプロックを用いた生産方式の拠点を整備中。主に日本メーカーに採用されているこの方式を、アメリカや韓国の大手メーカーにも拡大すべく注力している。

### 7 生活・環境プロダクツの下期予想が期初予想比で増益の背景

PVC テープやコルゲートなどが数量増となるのに加え、デンカポリマーの値上げ効果もある程度でくる。加えてノロウィルスなどの感染症流行の兆しがあるため、デンカ生研の販売増も織り込んでいる。

### 8 デンカ生研の検査試薬事業における海外展開と新製品開発の進捗状況

アメリカでは FDA の認証を取得し、また中国ではインフルエンザの POCT(迅速検査キット)の販売を開始するなど海外展開を加速する。また次世代製品はヒトとカネをかけるべく、デンカ生研の組織変更を行うなど、経営計画「DENKA100」達成すべく、デンカグループとして成長分野である「健康」分野に経営資源を集中している。

### 9 上期の検査試薬の流通在庫の調整の進捗状況

インフルエンザやノロウィルスの検査キットは流行時に備え、流通各段階で在庫を持っている。上期は流行がなく、在庫が増えた製品もあったが、その調整も進んだので、下期は出荷増を見込む。

### 10 検査試薬の大手海外検査試薬・検査機器メーカーとの協業状況

協業テーマの入れ替えはあるものの、順調に進行中

### 11 一時期多かったエラストマー・機能樹脂や電子・先端プロダクツの在庫水準

現在は両セグメントとも操業に見合った水準

### 12 生産体制の海外シフトに伴う社内組織や人員体制の考え方

現地生産は日本人だけでは運営できないので、優秀なナショナルスタッフの確保が課題であり、対応を進めている。例えばシンガポールでは現地の有力大学卒の人材が入社している。

以上